

称号及び氏名	博士(看護学) 稲垣 美紀
学位授与の日付	平成26年9月25日
論文名	心筋梗塞患者のセルフケアに関連する要因
論文審査委員	主査 高見沢 恵美子 副査 田中 京子 副査 簾持 知恵子

論文内容の要旨

心筋梗塞患者のセルフケアの内容から信頼性と妥当性のある心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度を作成し、セルフケアに関連する要因を明らかにすることを目的とした。

I. 心筋梗塞患者のセルフケアの内容（予備研究 I）

【目的】 心筋梗塞患者のセルフケアの内容を明らかにした。

【用語の定義】 セルフケアとは、心筋梗塞患者が自分の健康回復や再発予防のために、自らの利用しうるケア資源を活用しながら、主体的に遂行する活動であり、身体活動だけでなく、精神活動も含むこととした。

【方法】 参加者は、外来通院または検査入院の心筋梗塞患者 21 名であった。セルフケアの内容について、半構成的面接調査を行った。面接内容は、対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成し、セルフケアの内容を表す記述を抽出し、コード化し、カテゴリー化した。

【結果】 58 コードが抽出され、[食事管理][水分管理][服薬管理]などの 9 カテゴリーに分類された。

【考察】 セルフケアの内容は、心筋梗塞患者に特有で多岐に渡り、継続して実施すべき内容であった。看護師が患者のセルフケアを把握し、継続を支援することが重要である。

II. 看護師が捉えている心筋梗塞患者のセルフケアの内容（予備研究 II）

【目的】 看護師が捉えている心筋梗塞患者のセルフケアの内容を明らかにした。

【方法】 参加者は、循環器科病棟の看護師 15 名であった。セルフケアの内容について、半構成的面接調査を行った。面接内容は、対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成し、セルフケアの内容を表す記述を抽出し、コード化し、カテゴリー化した。

【結果】 39 コードが抽出され、[食事管理][水分管理][服薬管理]などの 10 カテゴリーに分類された。

【考察】 看護師が捉えているセルフケアの内容の多くは、患者と同様であり、看護師特有なカテゴリーとして、[体調把握]というセルフケアの動機づけや自己評価につながる内容があった。看護師が動機づけの強化、自己評価や再調整を促す支援の重要性が示唆された。

Ⅲ. 心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度の妥当性の検討（本研究：第 1 次研究）

【目的】 心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度を作成し、内容妥当性および表面妥当性を検討した。

【方法】 参加者は、循環器病棟の看護師 5 名および循環器看護を専門とする専門看護師 1 名、外来通院の心筋梗塞患者 7 名であった。項目について、心筋梗塞患者のセルフケアとして適切であるかを調査した。

【結果】 回答をもとに、質問項目を修正し、計 71 の質問項目を作成した。

【考察】 内容妥当性および表面妥当性が得られたと考える。

Ⅳ. 心筋梗塞患者のセルフケア尺度の信頼性・妥当性の検討とセルフケアに関連する要因（本研究：第 2 次研究）

【目的】 心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度の信頼性と妥当性の検討を行い、心筋梗塞患者のセルフケアに関連する要因を明らかにした。

【方法】 対象は、外来通院又は検査入院の心筋梗塞患者 225 名であった。方法は、無記名自記式質問紙で、外来又は入院中に依頼した。調査内容は、作成したセルフケア測定尺度、ソーシャルサポート尺度、一般性セルフエフィカシー尺度、自尊感情尺度、タイプ A 型判定表、健康関連 QOL の包括尺度 SF-36 日本語版を使用した。また、年齢、性別、発症からの経過期間などの個人的要因とした。分析は、1)セルフケアは、最尤法プロマックス回転による因子分析を行い、構成概念妥当性を確認し、Cronbach の α 係数を算出した。2)セルフケアに関連する要因については、共分散構造分析を行った。3)個人的要因とセルフケアに関連する要因との関連は、一元配置分散分析を行った。

【結果】 1)192 名から有効回答 (91.0%) を得た。2)因子分析の結果、心筋梗塞患者のセルフケアは、「心臓を守る日常生活上のセルフケア」、「習慣的な運動と運動の調整」の 2 因子 (28 項目) で構成され、構成概念妥当性が得られ、 α 係数は 0.9 以上で内的整合性が確認された。3)共分散構造分析を行い、心臓を守る日常生活上のセルフケア、習慣的な運動と運動の調整、【配偶者のサポート、家族のサポート、身体的 QOL、精神的 QOL、BMI、PCI 回数の 8 因子の因果関係が示すモデルが得られた。習慣的な運動と運動の調整は、身体的と精神的 QOL の改善、PCI の減少に影響していた。心臓を守る日常生活上のセルフケアは BMI の改善に影響していたが、身体的 QOL は悪化させていた。セルフケアモデルに関連する個人的要因は、年齢、性別、発症からの経過期間などであった。

【考察および結論】 本尺度は、信頼性と妥当性を有している。セルフケアに関連する要因

を説明するモデルが得られ、心臓を守る日常生活上のセルフケアの実施によって、生活
が制限され、**QOL**も低下することが危惧された。**QOL**の向上には、患者に可能な運動を見
極め、運動の継続を支援することが重要である。

学位論文審査結果の要旨

心筋梗塞患者は狭心症患者より低心機能であり、再発予防のための生活習慣の是正や心機能に合わせた活動などのセルフケアが必要とされている。本研究は、21名の心筋梗塞患者、及び15名の看護師が捉えている心筋梗塞患者のセルフケアの内容を明らかにし、作成した心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度を循環器病棟看護師5名専門看護師1名心筋梗塞患者1名を対象に内容妥当性と表面妥当性を検討し修正した尺度を作成している。さらに心筋梗塞患者225名を対象に質問紙調査を行い、妥当性が検討された心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度の因子分析を行い、構成概念妥当性、基準関連妥当性と信頼性を検討している。心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度に、ソーシャルサポート尺度、一般性セルフエフィカシー尺度、自尊感情尺度、タイプA型判定表、SF-36、BM、PCI (Percutaneous Coronary Intervention 以下 PCI) 回数などの疾病関連要因を加え、共分散構造分析を行い、心筋梗塞患者のセルフケアと因果関係が認められる因子を明らかにし、各因子に関連する要因を分散分析で明らかにした、独創的で優れた論文である。その分析結果から、習慣的な運動と運動の調整が身体的 QOL と精神的 QOL の改善や PCI 回数の減少につながるが、心臓を守る日常生活上のセルフケアを徹底することは患者の活動制限やストレスとなり QOL を低下させることが示唆された。心筋梗塞患者の QOL の向上を視野に入れ、患者の心機能にあった心臓を守る日常生活上のセルフケアを実施するよう教育し、習慣的な運動と運動の調整に焦点をあてセルフケア支援を行うことが重要であることが示された。

本論文は、心筋梗塞患者の QOL を高めるセルフケアを促進する看護の在り方を示した看護学の発展に寄与する優れた研究であり、博士(看護学)論文として価値あるものとして認める。